



宮城 政一

狭小の普天間高移転を

教育環境充実市街地も活性化

普天間高等学校は、昭和23年「野嵩高等学校」として独立認可され、同年7月に元中頭郡教育委員会および農事試験上跡地である現敷地に移転しています。昭和32年には校名を「普天間高等学校」に改称、創立66周年を迎え、2万8876人の卒業生を輩出して県内外のさまざまな分野において活躍しています。

域に信頼される学校となつていますが、しかし、本校の敷地は約3万平方メートルしかなく、狭い敷地に校舎がひしめいており、ゆとりのない教育環境になっています。そのため、体育の授業、学校行事、部活動等の教育活動を行うにはさまざまな支障が出ているのが現状です。

また山本一太沖縄担当相は「県や市と連携して跡地利用推進に取り組み」と述べております。このような状況を踏まえ、普天間高等学校同窓会は昨年12月に「西普天間住宅地区跡地への普天間高等学校移転要請」を県知事および県教育長に行い、宜野湾市にも要望しています。

中部地域ひいては沖縄県の人材育成の要となることと思います。普天間地区はかつて、市役所、公設市場等の官公庁舎や常設映画館5軒が立ち並ぶ繁華街でした。普天間高校も広い校庭400メートルトラックがとれる運動場があり、素晴らしい教育環境でした。本校が西普天間跡地へ移転することになれば、学校跡地を有効活用することで、普天間地区の活性化が図られるものと思われまふ。首里王府が、なんまち街道を通って参拝した古を再現すべく、普天満宮を核とした普天間地域を再開発して門前町をつくってほしい。宜野湾市も積極的に高校移転を支援して県と協力して跡地利用計画の中に普天間高校を位置づけしてもらいたい。(県立普天間高等学校同窓会長、70歳)

本校は、「質実剛健」「進取創造」の校訓の下、文武両道を実践し、県内でも有数の進学校として成果(昨年度の国公立合格者84人等)を挙げ、また、県高校総体総合成績4位、文化系活動でもさまざまな実績を挙げ地

のが現状です。今般、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区が平成26年度末に返還される事になっており、駐留軍跡地利用推進特別措置法の「拠点返還地」と指定され大規模な公共施設を含む市街地開発などの跡地利用を政府が積極的に支援すると報道されています。

西普天間住宅地区跡地への移転が実現すると、これまでの狭い敷地故のさまざまな支障が解消される事になります。また生徒一人一人の学習ニーズに対応した新たな教育施設が充実整備されることになり、これまで培われた文武両道の校風を強化し、さらに魅力ある学校として

同窓会長、70歳)